

世田谷気候危機区民会議

日時：令和5年2月10日（金）
午後6時～午後8時35分

会場：オンライン開催及び
教育総合センター「たいよう」

○環境計画課長 本日はお忙しい中、また、お足元の悪い中、「世田谷気候危機区民会議」に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めます世田谷区環境計画課長の〇〇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、オンラインと会場のハイブリッド形式で御参加いただいております。お忙しい中、誠にありがとうございます。

また、本日は各環境団体の皆様から団体ごとに、これまでの活動紹介、今後の活動内容や方向性につきまして御発表いただき、その後、団体同士及び区との意見交換を予定しております。

最初に、本日の注意事項をお伝えいたします。まず、本日の会議の発表及び意見交換は、事前に御提出いただきました申込票に発表及び意見交換参加者として、お名前を御記入いただきました方が御参加いただけます。それ以外の方につきましては、オンライン、会場ともに傍聴となりますので御承知おきください。

続きまして、オンライン参加の皆様へ注意事項をお伝えします。御自身の発言時以外はミュートに設定していただきますようお願いいたします。なお、Zoomにはチャット機能がございますが、本日は使用いたしませんので御了承ください。御利用についてもお控えください。また、通信上のトラブルなどがございましたら、さきに御案内しました事務局の携帯番号に御連絡ください。本日は、区の職員が記録のため、参加者の皆様のプライバシーには十分配慮の上、写真撮影を行いますので御承知おきください。録音、録画やスクリーンショットなどについては御遠慮ください。通信状況により一部の音声聞きづらくなる場合がございます。ヘッドフォンなどを御使用いただくと比較的聞き取りやすくなるようですので、お持ちであれば機器の接続をお願いいたします。

最後に、会場参加の皆様への注意事項をお伝えします。当施設の閉館時間の都合上、会議終了後は速やかに御退出いただきますよう御協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、世田谷区長より御挨拶申し上げます。

区長、よろしくお願いいたします。

○区長 皆さん、こんばんは。

今日、気候危機についての区民会議ということで、気候危機市民会議というのはあちこちで行われておりますけれども、世田谷区として初めてこうした区民会議を、環境問題に取り組む団体の皆さんに参加いただいて議論していきたいと思っております。

今、気候危機がどういう状況かということは、詳しく述べていくと本当に枚挙にいとまがないというか、全てが平常時とは全く異なる気候が現状でございます。猛烈な寒波や熱波、そして海水面の上昇、いろいろな自然の異変、山火事等々、世界中で、この日本列島も大変な危機にさらされているという中で、やはり気候危機というのは、南北問題、貧困格差の問題にも直結してしまっていて、食料、資源の高騰でウクライナに対するロシアの攻撃に端を発して、そういう意味ではアフリカなどに小麦が行かなくなる、トウモロコシなどの供給が途絶えていくという中で、国内の農業も非常にピンチ、酪農農家なども牛乳を作りたいが酪農を続けること自体、毎年赤字を生んでいくという本当に危機的な状況です。

世田谷区としては気候非常事態宣言を令和2年10月、3年前に行いまして、CO₂排出の抑制を目指して、地球温暖化対策地域推進計画の見直しを2年がかりで行いました。いよいよ今年の4月から新計画でスタートいたします。区では、再生可能エネルギーの世田谷区内の活用と、そして、地方で再エネ電源を開発あるいは運用していただいている自治体と交流しながら、こちらの電源を買い入れていくという自治体間連携に取り組んできました。

私自身のことになりますが、東日本大震災、そして福島第一原発事故から12年になろうとしています。この問題で自治体の役割の大きさというのを知って、また区長に就任してからも、世界のエネルギー転換、これは全部自治体から始まったということを勉強しながら、それなりの力で進めてきたつもりですが、今こういう時代になってみると、やはり、もう1段、2段と取組みを強化する、ステージを転換していかないと、なかなか従来の継続や延長では、自然が相手ですので、社会的効果が難しいというふうな実感もございます。

今日は各団体、長いこと環境問題に取り組んでこられた皆様方のお話を伺いながら、ぜひ一緒に打開の道、やれること、子どもたちと共に歩める手法についても御議論いただけたら幸いです。長時間にわたりますが、どうかよろしく申し上げます。

○環境計画課長 区長、ありがとうございました。

それでは、各環境団体からの発表をこれから始めさせていただきます。

発表に先立ちまして、各団体の御紹介をさせていただきます。本日は、6団体の皆様から発表いただきます。発表順に、エコひろば、世田谷環境学習会、世田谷みんなのエネルギー、ゼロエミ世田谷、生ごみリサイクル全国ネットワーク、まちづくりの仲間たちの皆様でございます。各団体の皆様からは、会場またはオンラインで発表いただきます。どう

ぞよろしくお願いいいたします。

また、世田谷区からは、区長、担当副区長をはじめとして、関連する部署の各管理職職員が出席しております。どうぞよろしくお願いいいたします。

それでは、ここで注意事項をまたお伝えいたします。

発表の際は最初に団体名をお知らせください。また、発表時間は1団体当たり10分程度とさせていただきます。

オンライン発表の方は、順番が来ましたら音声のミュートを解除してください。また、資料の画面共有が必要な場合は御自身での操作をお願いいたします。その際、会場の参加者の皆様にはスクリーンを通して資料を御覧いただきますので、資料を拡大して表示していただくなど、ほかの参加者の皆様への御配慮をいただきますようお願いいたします。

会場発表の方は、事前にお預かりいたしました資料を事務局で画面共有させていただきますので、ページ送り等が必要な場合は「次です」などとお伝えいただきますよう、よろしくお願いいいたします。

それでは、えこひろばの皆様、御発表をお願いいたします。

○えこひろば えこひろばの〇〇と申します。それでは画面共有させていただきます。

実は今日会場に伺って発表する予定だったんですが、風邪をこじらせまして、体調不良のために、残念ながらこのような形で発表することになりました。いつもはもう少しましなんですけれども、大分ひどい声なものですからお聞き苦しいですが、どうぞよろしくお願いいいたします。

それでは、えこひろばからお話しいたします。

えこひろばは、身近な環境問題に関心のある人を増やし、資源、エネルギーを大切に暮らす方を地域に広げるために啓発活動を行っているNPO法人です。2000年の11月にできましたので、今年でもう23年目になります。「楽しく・お得に・省資源」を基本方針として、「楽しく体験する」「学んで広める」「協働で広げる」、そういう活動をしています。

それでは、えこひろばの活動についてお話しします。まず、一番最初にこういう活動に関わるきっかけになったのは、ごみがこんなに多い暮らし方をしていて大丈夫でしょうかということだったんですけれども、まず買物で物を買過ぎない、もらい過ぎない、これが基本ですが、物を大事に使うという活動をしていきたいということで、環境に配慮した暮らしのきっかけづくりとして、いろいろな講習会を行ってきました。

ものづくりの講習会としては、裂き布を使ったぞうり作りは20数年間続けておりますけれども、裂き織りも続けています。あとは傘布を使ったエコバッグとか、今退職されてネクタイが余っている方が多いので、ネクタイで帽子づくりとかいろいろなことを行っています。

今のは定例で毎月行っていますけれども、それと一緒にエコひろばの団体会員であるぐるんぱの皆さんが中心になって、傘の修理、おもちゃの修理、包丁研ぎを行っています。今、壊れてしまった傘は捨ててしまう、おもちゃも壊れたら捨ててしまう、包丁も切れなくなったら捨ててしまうという方が結構増えています。直してくれるところがなかなかないということもありますけれども、やはり物を大事に使うという暮らし方を皆さんと一緒に共有していきたいということで、定例の毎月2回修理を行っているほかに、世田谷公園で行っていましたが環境フェスタなど、お誘いがあれば、このような地域イベントに出て傘の修理などを行っています。

それから、エコひろばの活動として、ごみを減らすというのが最初だったんですけども、考えてみると、ごみを減らすだけでは環境問題は解決しないんですね。それで、環境に配慮した暮らし方、食品、衣類、みどり、周りの生物、水、いろいろなことが関係してきますが、今日は皆さんエネルギーに関心のある方たちが多いので、エネルギーについて私たちの活動を御報告したいと思います。

信号待ちアイドリング・ストップキャンペーンというキャンペーンです。2005年から行いました。この頃、10数年前ですか、車はガソリンエンジンがほとんどということで、停車中もアイドリングしている車がとても多かったです。これはとてももったいないし、ガソリンの無駄ですし、CO₂もたくさん出しますし、それを何とかキャンペーンで解決したいということで、私たちの市民団体、それから行政、三軒茶屋の生活工房と区の環境課の方たちにも協力していただいて行いました。これで特に活躍して下さったのは、〇〇大学の〇〇というサークルがありまして、その大学生の方たちがとても活躍してくださいました。そういう協働事業です。

実際にどんな活動をしたかといいますと、今となってはちょっと笑ってしまうような活動なんですけれども、環状7号線の若林と世田谷線の踏切のところで、赤信号になったときにプラカードを持って横断歩道に出ていきまして、アイドリングストップしてくださいと呼びかける、そういうイベントでした。そのうち、だんだんアイドリングストップ車が増えてきたり、ハイブリッドカー、それから電気自動車が増えてきて、自然にキャンペー

ンの必要がなくなったということで2009年に終了しました。こんなこともやりました。とても楽しいイベントでした。

それから、エネルギー関係では、子ども向けの企画として、大学生と一緒に省エネクイズやエコかるたをやったり、これはエコフェスタちとふなという地域のイベントですけれども、こういうところで学生さんが活躍してくださったり、それから夏休みにソーラークッカーづくりをして、太陽光を大事に、こういうふうに使えるんだということをいたしました。

最初、私たちの活動の中での課題としては、個人ではできないこと、えこひろばという1つの団体ではできないことがたくさんあるということに、やっていくうちに割と早め気がつきまして、特に立場の違う人たちとの連携が大切ということで、アイドリング・ストップキャンペーンのように、いろんな方たちに入っていただくことでとても盛り上がるイベントになったという気がします。

協働で広げる例として、次に、私たちの活動の中から今も続いている2つのことを御紹介したいと思います。生ごみ堆肥で野菜作り講習会です。生ごみ堆肥を使うと元気な土ができるというのは、昔から言われてきたことですし、私たちも実感しておりました。それで、何とかこれを広げたいということで、2010年から世田谷区に働きかけをして、最初の3年間は協働事業として、その後は区の委託事業として、もう12年間以上実施しております。コロナ禍で2年ほど中止になりましたけれども、本年度も講習会を3回ほど開きました。この講習会の特徴は、生ごみ堆肥作りを皆さんに実習して体験していただくということで、できたものを持ち帰って、おうちで生ごみ堆肥として野菜作りに役立てていただくというものです。10年間ぐらいで既に1000名近くの方が参加してくださっています。

それから最後に、商店街との協働ですけれども、〇〇商店街のエコ活動のサポートを行ってきました。商店街の方たちとの出会いは、スーパーやお店のエコバッグの展示でした。そのときに商店街の女性部の方たちが来てくださって、それから交流が始まりました。商店街のエコロジー探検マップという形で、〇〇大学の研究室と一緒に商店のエコ活動をヒアリングしてマップ作りを行いました。このマップの中にあることですが、生ごみをリサイクルする生ごみ処理機を世田谷区からお借りしまして、商店街事務所で乾燥生ごみを作り、それを〇〇大に運んでいって、みんなでリサイクル肥料作りを行ったりしました。その後も商店街のイベントで、今もエコ活動のサポートを継続しております。

以上、駆け足で私たちの活動を紹介してきましたけれども、課題としては、高齢化とか、後継者不足とかいろいろなことがあります。先ほど省略してしまいましたけれども、最初の頃は地球温暖化と言っていましたが、地球温暖化、だんだん異常気象が毎年のようになり、気候変動、そして今、気候危機という本当に待ったなしの、みんなで動かなければ大変なことになるという時代になってきています。何とかそれをしたいというふうに思っていますけれども、一般の方の意識、普通の方の意識があまり変わっていないというのが、まだまだとても大きな課題としてあると思います。私たちとしては、1人の100歩より100人の1歩を目指したいということで、「楽しく・お得に・省資源」を合言葉に、これからも活動していきたいと思っています。

御清聴ありがとうございました。

○環境計画課長 えこひろば様、どうもありがとうございました。

続きまして、世田谷環境学習会様、よろしく願いいたします。

○世田谷環境学習会 世田谷環境学習会の〇〇と申します。よろしく願いいたします。

それでは、世田谷環境学習会の紹介と世田谷区と共に行えることについて、7分ほどで御説明させていただきます。

まず、世田谷環境学習会の概要を御説明し、その中で、今回の気候危機区民会議の趣旨に適した地球環境部会の活動内容をお話しし、最後に我々が世田谷区と共に行えることについて御説明させていただきます。

まず、世田谷環境学習会の概要です。設立の経緯をお話しします。2002年に世田谷区が世田谷環境学習スタッフ養成講座というのを開催しました。これは区民参加型の環境の取組みを企画、運営、実行するスタッフの養成が目的です。そして、2003年7月にスタッフ養成講座の修了生の活動の場として、区の後押しもあり、世田谷環境学習会を設立いたしました。

次に活動概要ですが、目的は、地域の皆さんと身の回りの環境について考え活動することとして、活動概要は、各研究部会での活動のほかに、チームとして親子向け自然観察会、小学校の自然関連授業の支援、一般の方向けの環境入門講座などを定期的に行っています。

では、各研究部会の活動概要を御説明します。まず、食と農部会というのがあるんですが、ここは各地の農業の見学や農作業体験など、食と農に関する研究を行っており、江戸時代の開拓農地や植物工場の見学、エコな調理法の紹介などを行っています。次

に、水部会は身近な水や水環境を知って人々に伝える活動をしており、世田谷の川歩きや調査、子どもたちへの教育などを行っています。みどり部会は、植物のほか、虫や鳥など自然環境保全活動をしており、世田谷の緑地散策や名木巡り、子どもたちへのエコ工作イベント開催などを行っています。まち部会は、プラスチックごみによる海洋汚染防止の啓発活動を行っておりまして、子どもイベントでの展示や紙芝居、大人向けの講義やプラごみ調査などを行っています。最後に、地球環境部会は地球温暖化問題を中心とした自らの学習や教育活動などを行っています。

この後、今回の気候危機区民会議の趣旨に最もふさわしいと思われる地球環境部会について御説明いたします。

では、地球環境部会の活動内容です。基本テーマは、地球温暖化問題です。目指すゴールは、サステナブルな地球へ、そして、私たちができることを考え実行するということをして、温暖化についてメンバー同士で勉強し、区民や子どもたちへの環境学習の提供による環境意識向上を支援できればと思い、活動しております。年間の活動は、毎月メンバーで部会を開催し、世田谷環境学習会全体の定例会においては、我々の研究の発表や環境入門講座、また施設見学会などを開催しております。そのほか、外部活動への参加として、環境エネルギー・ラボ in 世田谷という会にも参加しております。

では、それぞれの活動について内容を御説明します。毎月開催している部会では、各自の研究テーマの進捗共有や気になるニュースの情報交換、そして、イベントがある場合はその打合せなどを行っています。

次に、定例会でのイベントについてですが、2022年度前期は施設見学会を開催し、今回は東京都のスイソミルという水素エネルギーに関する施設を訪問して勉強いたしました。また、定例会での勉強会企画では、昨年は、近年の世界の異常気象とその対策、COP27及び世田谷区の温暖化対策とCO₂削減をテーマとし、発表と意見交換をいたしました。そして、外部の環境イベントへの参加として、環境エネルギー・ラボ in 世田谷に参加しております。このイベントは、環境とエネルギーについて家族みんなで楽しく学び、体験できるものでして、地球環境部会は2018年から参加し、子どもたちに地球温暖化の説明やクイズ形式での教育などを行っています。

また、環境入門講座という一般の方向けの環境教育を半日かけて行っています。テーマは、地球温暖化と私たちの生活で、気候変動やエネルギー、そして省エネなどについて詳しく説明する講座を行っています。

最後に、我々、地球環境部会が世田谷区と共にできることを御説明します。今までお話しした活動実績より、以下を企画し、開催することができます。なお、企画・開催活動は、世の中の新しい情報を部会などでキャッチアップして進めています。共にできることですが、1つは施設見学会、そして現地やリモートでの勉強会、また外部の環境イベントとのコラボや子どもたちへの教育、その他一般の方への地球環境についての半日の入門講座などです。

御説明は以上となります。御清聴ありがとうございました。

○環境計画課長 世田谷環境学習会様、どうもありがとうございました。

続きまして、今度は会場のほうからとなります。世田谷みんなのエネルギー様、よろしくお願いたします。

○世田谷みんなのエネルギー 世田谷みんなのエネルギーの代表をしています、○○といます。よろしくお願いたします。

世田谷みんなのエネルギーはNPO法人です。ちょうど10年前ですかね。3.11の震災、その前からいろいろな活動をしていたんですけども、それをきっかけにNPO法人化しました。このスライドに出ているところは下北沢にある教会でして、その上に10キロワットの太陽光パネルを乗せています。

始まるまでに幾つかの団体の構成メンバーが一緒になって、エネルギーのことをきっちり地元でもやっていこうということで始まりました。

最初にやった大きなイベントで100名以上の方が集まっていただいて、震災の前から先駆的にいろいろエネルギーのことを全国で行ってきた方々を、世田谷区長も合わせて6名の偉大な人たちをあの狭いところにぎゅうぎゅうに、非常に皆さん熱気ある議論をしていただいて、その後、みんなでワークショップをして、これから世田谷は何ができるだろうというのを考えました。その中で出てきた1つが、市民活動として太陽光発電を乗せようじゃないかということになっています。

最初に出てきたものは、普通の屋根だった○○に、10キロワットほどの太陽光発電を乗せました。

このスライドは、2013年6月22日に点灯式を行ったときの写真です。教会の聖堂の中の電気に直結して、実際に太陽光発電で照明をつけるというシーンになります。

どういうふうにお金を集めたかといいますと、当時は10キロワットで400万円ほどかかりました。我々の10名ぐらいのメインの仲間が1人10万円ずつぐらい出資して合計100万

円。それでは全然足りないので私募債、10名ぐらいからお金をお借りして、1人10万円からもっと多く出している方もいるんですけども、この方たちで200万円、これを10年間かけてお返ししていく。それでもちょっと足りなかったのが、最後はサポーターということで、1人1万円で100名程度にお願いして100万円集まりました。めでたく発電を開始できたということになります。今のところ順調に動いていまして、10年間で330万円ほどの収益があるので、お金を借りている人たちにもお返しできるという形になっています。もちろん10年度以降も発電する予定です。ちょうど今年が10年目です。

さらに、こういう市民出資型の発電所をあちこちで造ろうということで、東京都内のいろんなグループと一緒にになって新しい試みを始めました。

このスライドの場合はさらに10倍の規模です。市民出資専門の団体と一緒にになって1500万円ほどを出資で集めて、さらに2500万円を金融機関、〇〇を中心として融資を受けて4000万円を集めて、世田谷区内をはじめとする5か所に太陽光発電を設置しました。

このスライドは発電所です。上の3つが世田谷区の施設の上で、屋根貸しの応募がありましたので、それに入札して、無事に発電開始できた3か所になります。それから、それ以外に都内でほかの場所を探したんですけども、なかなか適地がなくて、〇〇管内ですが、茨城と山梨のほうに50キロワット程度の発電所をつけております。これも8年目ほどですけども、無事発電を続けております。

それ以外に区と一緒にといたしますか、環境学習会を企画運営させていただきました。2014年からコロナになるまで毎年開催しておりました。

向かったところは、旧三浦健康学園にある太陽光発電所を見に行ったり、横浜港のところに立っている風力発電所を見に行ったりとか、次に川崎のかわさきエコ暮らし未来館という環境学習ができるところに、世田谷区内の小学生たちと一緒に見学して、いろいろ触ったり、クイズに答えたりということを行いました。

そうやっていろいろ行ってきたんですが、このスライドは世田谷区内にあるエネルギー、左側がどういうエネルギーを使っているか、右側がそのエネルギーをどこでどんなふうに使っているかという図ですけども、ネット上で見られます。これを見ると、左上のほうに地域の中にある再エネのポテンシャルというのが、普通の自治体では出てくるんですけども、ほとんど見えなくなっておりまして、世田谷区内での発電のポテンシャルは、実はそんなに多くはないのかなというのがありました。もちろん屋根は空いているので、そこに太陽光発電をつけていくことはできるんですけども、逆に世田谷区内ででき

るとしたら、スライドの右側のエネルギーを使う方をどうするかというのが大事だと。

電気、その他エネルギー、灯油、ガスとか、意外にもレストランがかなりエネルギーを使っている、それから自家用車、食品などですけれども、電気と暖房や給湯に使うガスをどうにか減らしていけないかという活動を始めようと思いました。

どういうことができるかというので、スライドの一番上に挙がっているのがゼロエネルギー住宅、ライフサイクルカーボンマイナス住宅、要するに住宅をしっかり断熱できているもの、その後に屋上太陽光パネルというところに、すごく減らす余地があるんだというのがデータからも明らかになっています。

断熱とか遮熱をするのがどのぐらい効果があるかを、みんなで実際に測ったりして研究するエネルギーシフト未来工房という名前をつけて、いろんなワークショップを行いました。

このスライドは子どもたちと熱の伝導を、水を触るのと、銅を触るのと、レンガを触るのとで熱の伝わり方が違うというのを見ているんですけれども、次のスライドは、すだれとか、よしずとか、遮熱カーテンで本当に表面温度が変わっているんだろうかというのをチェックしています。結局一番涼しかったのは、スライドの左側にあった木陰でした。

次が、断熱ハウスです。スライドの左側は断熱が入っているコンパネハウス、小さい倉庫みたいなものです。右側は断熱が入っていないので、中の体感温度が違うというのを体験できるように造りました。壁の間に断熱材が入っているものと入っていない2つを造ったというものになります。

スライドは窓から熱が逃げたり、入ってきたりするので、そこに断熱シートをしたり、内窓をしたり、障子をしたり、どれが一番効果があるだろうというのを実験しているところです。

これらの実験は誰でもできるよということで、ガイドブックを作りました。数が限られています、皆さんにお配りしたいと思いますので、ぜひ世田谷区内のあちこちで、このような実験をしていただけたらと思います。

それ以外にいろんな事例紹介のためのブックレットも作りました。ここに数冊持っていますけれども、数が少ないので、すみません。見たい方がいましたら後ほど言っていただければと思います。

このスライドは断熱をしたり、太陽熱を使っている住宅を視察して、それを実際に測ってみると、気温は34.5度ですが、天井とか壁、床などは25度と涼しくなっているのが分か

ります。

戸建てだけではなくて、賃貸集合住宅も世田谷では負担になっているということで、そこも見学に行きました。ここもいろんな断熱材を使ったり、天然素材を使っております。集合住宅のいいところとして、お隣さんとは壁を接していますので、その間に厚い断熱をしなくても断熱材を節約できる。節約して、お互いの家の暖かさや涼しさが伝わること、いいのかなと思っています。涼しいというところも見えていると思います。

みどりが多い、建物です。これは世田谷区内の例です。

この辺のスライドは写真集なので、どんどん進んでいってください。環境共生住宅、これも20年ぐらい前ですね。

1軒1軒だけではなくて、まち全体として環境を意識しているのが大事になるということで、ドイツのフライブルクにも視察しに行きました。山からの風が途切れないように、建物の方向も風の流れを遮らないように造っているということです。太陽光があるとか、木造だったり、トラム、路面電車を残しているというところなんです。

次のスライドでは富山でも公共交通をきちんと活かそうということでやっているのも紹介しています。

今年度の取組みになります。動力・照明のところを減らそうということで、エネルギー効率の向上に向けたキャンペーンです。

今までやってきたところは、環境とかエネルギーに興味がある人だけにアピールしているような感じがあって、一般の区民の人に強くアピールするにはどうすればいいんだろうかというのを考えて、「まちで一番古い冷蔵庫コンテスト」、ここにいる方は御存じかと思いますがけれども、最近のものは省エネが進んでいますので、特にこんなエネルギー代が高騰しているときに古い冷蔵庫を使っていると、省エネのほうに替えた方がいいですよということで、全町内会にチラシを配ったり、あちこちの掲示板にポスターを貼ったりして、いろんな人の目に止まるような工夫をしてみました。

一番古い冷蔵庫の方に、最新の省エネ冷蔵庫を無料で交換するというキャンペーンです。これは表彰式です。一番古かったのは、64年製のもので、次が70年代のものでした。このスライドが替えた古い冷蔵庫、替えているシーンで、2台同時に交換したんですけども、2台を合計したエネルギーの使用量が6.51だったんですが、それよりも気持ち容量が大きい最新の省エネの冷蔵庫でも1.30と、5分の1以下の省エネ性能だったというのが明らかになりました。

今後の活動として、今日のような区民会議を通して、先ほどデータをベースにして活動を考えていくというのを我々はやってきたんですけれども、そういう場があちこちであるといいなと思っています。断熱や住みよい住宅というのは、生活もすごく暖かくて、夏は涼しいという、いろんないいことがありますので、そういうポジティブイメージをどんどん広げていくようなところをできればなと思っています。

すみません、長くなりました。以上になります。

○環境計画課長 世田谷みんなのエネルギー様、どうもありがとうございました。

次は、生ごみリサイクル全国ネットワーク様、お願いしてよろしいでしょうか。

○生ごみリサイクル全国ネットワーク 生ごみリサイクル全国ネットワークの〇〇と申します。

簡単な風通しのいい容器なんですけれども、その通気式生ごみ保管容器カラットを使って、できるだけエネルギーの節約をしましょうというのが私たちの活動で、大体カラットを作りましたのが2006年ですから、それ以降ずっとカラットの普及に関わっております。

これまでの活動ということですが、私は何も知識のない、連れ合いが公務員で、東京と地方を行ったり来たりで、特技は引っ越し作業というような主婦だったんですが、定年間に世田谷区に落ち着きまして、世田谷区の「区のおしらせ」で、ごみとリサイクルという講座を見たわけです。と申しますのは、そのちょっと前に、それまで古紙の回収に毎月来てくれていたおじさんが来なくなったわけです。それで新聞や雑誌や段ボールを家の中にためて、困った、これはどうしたらいいんだろうというときに、ちょうど消費生活課がごみとリサイクルという講座を用意してくださって、早速申込みさせていただいた。それで出席いたしまして、その結果、地元で紙、瓶、缶のリサイクル活動をボランティアで始めたわけです。

しばらくしたら、〇〇という廃棄物の専門雑誌の編集室から、生ごみのリサイクルに取り組んで、感想文を書いてくれませんかという依頼が、なぜか私のところへ来たわけです。その当時、私はリサイクルに燃えていましたので、喜んで引き受けました。それがきっかけで、〇〇のリポーターになりまして、その当時生ごみのリサイクルに取り組みます先進的な企業、自治体の活動を取材して、一生懸命原稿を書いていたわけです。〇〇とか、〇〇とか、〇〇とか、それから社員食堂、〇〇とか〇〇、そういうところも全て取材させていただいて原稿をお書きした。自治体の場合は地方ですね。生ごみを実際に堆肥にして、農業利用されている宮崎県の綾町とか国富町、山形県の長井市とかいろんなところ

へ行きました。

夢中に原稿を書いている間に、生ごみのリサイクルというのは本当に大事なんだなと思って腑に落ちたんですが、その頃から生ごみに取り組む市民団体がどんどんと増えてきたわけです。ところが、その様子を見ていますと、堆肥というものを全然御存じない人が、そして、生ごみを分解する微生物についての基礎知識を全く持っていない人が、某宗教団体のぼかし液を使って、それで堆肥を作るんだということで、割とめっちゃくちゃな状態だったわけです。やっぱり、情報交換、情報共有をすることが大事だということで、女性たちで生ごみリサイクル全国ネットワークを立ち上げたわけです。それが1996年でございます。

特に地方の人たちは熱心だったものですから、地方の人たちに署名も集めていただいて、国に請願を出そうということで、98年に国に生ごみの焼却はやめてほしい、生ごみなど未利用有機物、雑草とか植木剪定枝、そういうものの焼却はやめて、それを堆肥にして、健康な農作物を作ってください、私たちはそういうものが欲しいんですというような請願を国に出したわけです。

そうしましたら、2000年に食品リサイクル法ができたわけですがけれども、それは事業系生ごみを循環資源とする法律でして、ところが請願を出したのは家庭の主婦が中心だったものですから、家庭生ごみも検討するよという内閣の附帯決議文がついたわけです。

それを受けまして、2001年に家庭系食品廃棄物リサイクル研究会がスタートしたわけですが、結局結論は、「家庭生ごみは家庭で保管している間に腐敗する。腐敗した生ごみから良い堆肥を生産することはできない。家庭生ごみは広く浅く分布しているため収集作業が困難。廃棄物として他の可燃ごみとともに焼却することが望ましい」ということで、家庭の生ごみは廃棄物と位置づけられちゃったわけです。

その結果、現在も日本では、家庭生ごみが2020年では748万トン、その90%以上が焼却されているという状況。そして、スライドのグラフをちょっと見てください。これはOECDの2013年の調査結果ですが、加盟国38か国の中で、生ごみを堆肥化している国をランクづけされたんですが、ドイツ、韓国が圧倒的に生ごみの堆肥化が進んでいまして、やはり日本は最下位の方なんです。でも、これはまだいい方なんです。というのは、2000年に食品リサイクル法ができました。そして、2013年ですから、事業系の生ごみの資源化が進んでいまして、そしてここまで来ているということです。

私たちが全国ネットを立ち上げましたときは、事業系の生ごみ、家庭系の生ごみ合わせ

て資源化率は0.3%というひどい状態で、ワインの搾りかす、焼酎の搾りかす、それからお豆腐のおから、何もかも焼却という状態でした。次のスライドの右のグラフ、世界のゴミの焼却割合ですが、そういうわけで日本がやっぱり圧倒的に高いわけです。

ここには出していないんですが、2008年のOECDのデータがあるんですが、日本にある焼却施設は1900という、もうびっくりするような断トツで、ほかの国は焼却炉はまだまだ少ないという状態でした。そして、2018年になりまして、焼却施設の数が1086になったわけです。大分低くなったわけですが、それでも世界の3分の2の焼却施設が日本の国土で日々、CO₂と水蒸気と排熱を出しているという状態です。日本の国土といいますと、世界地図を思い浮かべていただくと分かりますように、世界の国土の僅か0.28%で、そういう狭いところに世界で3分の2の焼却炉が林立して、そして生ごみを焼却しているということで、非常に情けない状態ということなんですね。

それで、私はできるだけ生ごみを資源化してもらいたいということで、家庭で生ごみを保管している間に腐らないようにするにはどうしたらいいかということで、カラットというものを作りまして、そして、カラットの取組ですね。どれぐらい水分が減るかを新潟市とか、所沢市とか、東京都北区、世田谷区さんも試行していただいて、水切り道具よりも、やっぱり風乾するカラットが非常に水分減量効果が高いということで、今に至っているわけです。

この通気式生ごみ保管容器カラットというのは、水切りした生ごみを風通しのよい状態で半乾燥させる容器です。皆さん、生ごみは臭い、汚いと言うんですが、食材がごみとなったときは臭くないんです。それがなぜ臭くなるかというと、生ごみに多く含まれる水分と、それをポリ袋に入れることで酸欠状態となる。そのために嫌気性の微生物が活動して生ごみが悪臭を出すということです。それで、この嫌気性の微生物が休眠するように酸素をできるだけ送り込む、これがカラットの役割です。

なぜカラットを作ったかということです。生ごみはミネラルと水分を非常に多く持っているのです。ミネラルというのは、窒素、リン酸、カリ、マグネシウムというものですが、これは動物も植物も自分の体内で作りに出すことはできないから、全て作物は栽培土壌から吸収、そして、私たち人間はその作物を食べて体に取り込むということです。ですから、窒素、リン酸、カリって化学肥料は畑にまけばいいんですが、その他の必須微量元素というものが16種類あるわけですが、生ごみや植木剪定枝、そういうものを堆肥にして、初めて得られるものなんです。それがないと作物は健康に育たないということです。

ですから、生ごみを焼却して埋立地に捨てるということは、本当にもったいないことをしているということと、生ごみは約80%以上が水分なんです。水分の多い生ごみを焼却するという事は、水を水蒸気にするので、水蒸気にするためには大変なエネルギーが要る。それだけじゃなくて排ガスの処理ですね。水が水蒸気になると体積は1000倍以上になります。非常に体積が増えた排ガスの処理にエネルギーを使い、そして白煙防止のためにエネルギーを使うので、エネルギーを非常に多く使うことをやっているわけです。

ですから、生ごみのリサイクルというと、何だ、ごみの問題かというふうに簡単に考えないで、大量のCO₂を出し、排熱を出し、水蒸気を出し、温暖化を加速しているということで、気候変動にも大きく関わってくることですので、ぜひ真面目に受け止めていただきたいと思って出席させていただきました。

○環境計画課長 どうもありがとうございます。

続きまして、まちづくりの仲間たちの皆様、お願いいたします。

○まちづくりの仲間たち 皆さん、こんばんは。まちづくりの仲間たちを代表していません、建築家の〇〇と申します。

それでは、まちづくりの仲間たちは、今まで発表していただいた団体とちょっと毛色が違うんですけれども、特別環境に特化した団体ではございません。皆様のお手元にお配りしました、これを読んでいただくとお分かりになると思うんですけれども、2011年8月12日に設立しまして、今日に至っております。世田谷区が抱える多様な問題に関して、誰でもが参加できるプラットフォームをつくりまして、そこで個々の問題を1か月に1回の定例会議で議論し、意見を交換し合い、それをまとめて区議会に出したり、時には、その問題が区の職員の方を呼んで話をしたほうが、より深く意見交換ができるのではないかとということで、担当部署の部長さんや課長さんをお招きしたり、時には世田谷区長にも御無理を言って会に参加していただいたりして、今日に至っております。

今日は、気候非常事態宣言というのが出たので、昨年1年間、まちづくりの仲間たちの間で環境問題について意見交換をし、それをまとめたものを、この後、説明があると思いますが、環境計画課長のところにお持ちして、こういうことができないかという提案をさせていただきました。そのことで、今日ここに環境問題のシンポジウムにお呼びしていただいたのではないかと考えております。

それでは、まちづくりの仲間たちの紹介は、皆さんにお配りしたチラシを読んでいただいて、今までに世田谷区の基本構想になる、白黒のコピーのものですが、これに細

かいことがいろいろ提案してあります。このような問題を一つ一つ世田谷区が解決していくと、よりよいまちになっていくのではないかなというふうに私自身は思っております。

メンバーは9名おまして、大体、1か月の定例会ではほとんど9名の方が参加していただいています。それ以外に区議が3名参加していただいています、やはり区議が参加していただきますと、区議会の内情とか、区議会で問題になっていることが意見として聞けるので、意見がより深い議論になっていくということを実感しております。ですので、皆さんと御一緒に、少しでも世田谷区がよりよいまちになるように考えていきたいと思えますので、ぜひプラットフォームに参加していただきたいということをお願いして、代表としての挨拶を終わりたいと思います。

それでは次に、区のほうに提案した内容を具体的に説明していただきますので替わります。

○まちづくりの仲間たち まちづくりの仲間たちのメンバーの1人で、〇〇と申します。

世田谷ビジョンのところで、先ほど〇〇代表からの話にありましたけれども、その中でも環境問題について、環境・街並みに関しての気候非常事態宣言の具体化、あるいはグリーンインフラの充実を指摘しております。指摘しただけで、その後どうなのよというところもありますけれども、その後は、我々定例会議の中で、どういう形で世田谷区が対応していただけているのかとか、いわゆるフォローアップというようなことを議論したりしてきました。

その1つが、非常事態宣言が2020年10月に区長から出されて、この内容を見てみると、IからVまでの施策を出している中で、大量の資料と大量のプランが明記されて掲載されていました。我々も、これを1つずつ見ていく価値があるなど、特に当時はCOP26だったかな。その話題がある中で、世田谷区の取組みがどうであるのかというところに非常に興味を持って議論して、結果的に、まちづくりの仲間たちとして、世田谷区のCO₂削減の取組について議論をしていく中で、いろんな疑問が出てきたので、区長への質問ということで、大量の質問になったんですけれども、まず区長へのメールを去年の4月に出しました。この結果というか、質問に対する回答を待って、もう少し我々として深掘りしていければいいなということ。

—その結果、このスライドにあるとおり、区の担当部署21か所から、先ほどの施策をやっている部署が実際は21か所以上あると思うんですけれども、回答を得た21か所から個別に数か月にわたって回答をいただきました。この中身がよく分からないところもあったの

で、環境政策部の方、お忙しい中に会合を持っていただいて、先ほど〇〇代表が言ったとおり、区の方々とのコミュニケーションの中で、もう少しまちづくりの仲間たちの中の理解を深めていこうということで、こういう部会の中で御説明いただきました。その当時、環境政策部としては、4つ目にあるとおり、素案を区の中で議論している中で、9月に説明会があったので、説明会のときにも質問したり、あるいは提案ができるところはしてきました。最終的には、先ほどいろんな部署から来た質問の回答をもう一度見直して、9月の説明会の後、素案に対する意見書を10月に提出させていただきました。

その素案の中身の説明を全部やってしまうと時間が10分で終わらないので、区への提言の中に9項目として、スライドにまとめていますけれども、こういう内容を提言しております。

今日、特に区長が来られているところもあるので、提言の①のところについてお話しします。先ほど申し上げたとおり、いろんなところからの回答があって、これはどこがどういうふうに担当しているんだというのが、やってみて分かるんですけども、世田谷区として、温暖化への取組みというのが、果たしてこれでいいのかどうか、そこをもう少し深掘りしてみる必要があるんじゃないかということで提言したのが、区長をトップとする区長直轄の組織をつくるとか、あるいは担当する環境計画課は各施策を担当する部・課を統括する課として位置づけるとか、いわゆる司令塔を設けるべきではないかというのを非常に強く感じました。それは、ある意味で予算管理の一元化にもつながる。区は地方自治体として1年予算で管理するんでしょうけれども、環境問題というのは1年で解決するものではないので、少なくとも中長期の予算というような視野を持って、毎年の予算を管理していく。そういうような視点を、指揮命令権限を持つ司令塔が管理していくべきではないか、そんなことを提案しております。

それから、区議会の中の対応ももう一つ、実は弱いんじゃないかなという意識を区議の人たちの参加もある中で議論が出てきて、こういう環境委員会等を設置するなど、区議会の中での対応も検討してほしい、そんな提言をしました。

もう一つは、100人規模の気候市民会議、今日やっている会議もその1つのきっかけになっていくのかなと思っていますけれども、もう少し市民の理解を深めていくためには、こういうような立てつけを考える必要があるんじゃないか、こんなことを1つ目の提案で出しております。

時間がないようなので②から⑨までは、我々ホームページを持っているんですが、今ち

よつと機能が低下というか、うまく開けないみたいなんです、行く行くはホームページで全部見られるようにいたしますので、見ていただければと思います。

最後のページだけ、30秒で。区民会議への積極的参加ということ、今回1回だけで終わらずに、今後のモニタリングをしていく。先ほどの推進計画が新しく出の中で、モニタリングをしっかり見ていきたいなど。それは、この気候危機区民会議でもいいでしょうし、先ほどの100人委員会をつくるなど、2つ目のところに係るんですけれども、環境問題へ区民の参加をもっと推進していく。ここに我々、まちづくりの仲間たちとしては力を入れていきたい、どういう考え方があるのか、区としても対応をどういうふうにしているのか、そんなことを考えていきたいと思っています。

3つ目、区民の環境に対するライフスタイルを変えていく施策、これも2つ目と関わる場所ですが、そういうことを取り組んでいきたいと思っています。あとは、言わずもがなですが、他組織、グループ、今日来ていただいている皆さんとの連携を強めていきたいと思っています。

○環境計画課長 まちづくりの仲間たちの皆様、どうもありがとうございました。

最後に、ゼロエミ世田谷の皆様、よろしくお願ひします。

○ゼロエミ世田谷 ゼロエミ世田谷の〇〇でございます。今日はお招きいただきありがとうございます。

私たちは、もともとフェイスブックグループにゼロエミッションを実現する会、これは全国のグループがございまして、事務局を〇〇にやっていたんですが、全国の自治体から脱炭素をとということを目指して活動しています。とりわけ、2030年目標の引上げが自治体においても重要だということで、具体的な政策にプラスして、2030年目標の引上げということを各地で要請しているという状況でございます。

一方で、太陽光発電の義務化を東京都がやってくれましたけれども、あと建築物省エネ法の国会への提出、法案成立というようなことをやってきております。

もともと、今、スライドで共有させていただいている、おととしの6月に2030年目標の引上げをお願いしたいということで、区長に要請をさせていただいたところが活動の出発点でございまして、その後、やはりおととしの10月に、「自然エネルギー100%は省エネと再エネで実現する」というオンラインイベントを実現させていただきまして、区長と環境政策部長にも御参加、御発言いただいた。このときは百数十人に御参加いただいて、今日来ている団体の皆さんにも共催や協力いただいたというのが私たちの活動でござ

います。

様々なメンバーがいますので、2人だけですけれども、〇〇さんのほうから簡単に自己紹介いただければと思います。

〇ゼロエミ世田谷　ゼロエミ世田谷の〇〇と言います。よろしくお願いいたします。

私の方は、世田谷の実践されているせたがや版RE100の賛同者としても登録させてもらっていて、私が登録したときはまだ人数が少なかったもので、個人としては〇番目に賛同してたりします。活動としては、気候市民会議というものがヨーロッパ、イギリスやフランスで主に2019年あたりから開催されているものですが、それを日本でも導入したいというところで、環境省に提言したり、実際に若者版で100人集まってもらって、みんなで提言づくりをする気候市民会議の若者版、気候若者会議を開催させていただいたりしています。

今自治体でも気候市民会議が実際に実施されるように徐々になってきておりますので、ぜひ世田谷区でも、世論喚起という意味合いでもありますし、環境意識の高い市民を育てるという意味もありますし、一緒に巻き込んでいく。区政と区民とが一緒に、世田谷区としてどういうまちづくりだったとか、みんなでどういう未来を描いていったらいいのかというところから、実際にこういう政策をつくったほうがいいみたいな、そういう現実的なところまでいろいろと話ができるかと思っています。ぜひ、そういったところをやっていただきたいなと思っています。

すみません、自己紹介の中で。では、〇〇さん、よろしくお願いいたします。

〇ゼロエミ世田谷　ありがとうございます。よろしくお願いいたします。ゼロエミ世田谷から参加させていただいております、〇〇と申します。

私は、国際環境NGOの〇〇のボランティア団体の中で生まれた〇〇というアクションチームに所属しております。そこで石炭火力を止めるためのアクションを様々な形で行っていたりします。一方で、会社としては、世田谷の〇〇に本社を構えている〇〇という会社に勤めているんですけれども、美容業界の中でも、こういったグリーンな活動を広げていきたいというところで、グリーンプロジェクトを立ち上げて、全国の美容室に向けて、少しでもグリーンアクションを広げるということをコンセプトに活動し始めております。本社も世田谷にありますので、ぜひ世田谷区の皆さんとも、こういった活動を何か一緒にできればなというところを模索しておりますので、皆さんといろいろと意見交換できたらなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○ゼロエミ世田谷 本日の提言ですが、何度も提言させていただいているところですが、まさに世田谷区の地球温暖化対策地域推進計画が決定される時期が迫っていると思いますが、私たちが要請をさせていただいてきておまして、現状の目標を御説明しますと、2030年の温室効果ガス削減目標57.1%という案になっています。これはかなり高いものだと思います。

一方で、世田谷区は野心的目標、さらなる挑戦ということで、2つ目の数字、60%を掲げていただいていたのですが、私たちは65%以上が可能ではないかという提言をさせていただいて、60%は今の案だと、何と66%にさせていただいています。区長や環境政策部の皆さんの御尽力のおかげだと思います。ありがとうございます。

私たちがさらにお願いしたいのは、この57.1%という目標値が世田谷区の目標になってしまいますので、これを66%にさせていただきたい。今、野心的目標で掲げていただいているものを、そのまま目標にさせていただきたいということをお願いしたいと思います。現状、56.3%というのは、57.1%になっています。これは人口動態の変更によるものとお聞きしています。

先ほど、区内での様々な取組みのお話、すばらしい御提言やお取組みをお聞きしたところですが、実は57.1%の削減の大部分というのが、国の電力が再エネと、残念ながら原発が稼働するということを前提にして火力発電が減少するので、2030年には1キロワット当たりのCO₂排出係数が減りますというところで、これによるものは半分を占めています。もう一つ、世田谷区の計画では、国の温暖化対策計画に書かれているものを人口比率とか、そういう比率で、全部ではなくて幾つか拾って世田谷区に適用すると、またこれが削減量の半分近くになっているということで、実は区独自の対策というものはあるんですが、そんなに多くないというところになっています。私たちがチェックさせていただいたところだと、温暖化対策計画の92項目のうち32項目しか世田谷区に当てはめて計算をしていないので、これを行った場合には57.1%より高くなる。

論点2として、昨年、建築物省エネ法が改正されて、断熱義務化が2025年から始まるということの中で、今、国の政策が様々、義務化のレベル、プラスアルファ、ZEHレベルではないと、税制優遇といったものは使えない、断熱性を高める方向になっていますので、その分が計算されていないというところと、世田谷区にはすばらしい目標を持っておられる〇〇さんとか、〇〇さんとか、2025年に既に再生可能エネルギー電力100%と言っている会社さんがありますが、そういったものがこの計算方法だと反映されていない。

さらに、東京都が太陽光義務化、あと東京ゼロエミ住宅補助金というのを5年前ぐらいからやっているんですが、昨年からさらに基準を強化して、高い断熱性に補助金を出すということになっていて、世田谷区内の住宅展示場などに行っていただくと、東京ゼロエミ住宅補助金がこんなにもらえますとか、太陽光をつけるとこれだけもらえますみたいなことが、各ハウスメーカーさんのところにのぼりとかが上がっているんです。

そういった国の政策、とりわけ東京都の多額の補助金について、世田谷区は削減されるところが計算されていないということで、今年度250億円で、さらに補正予算で追加をしてきていまして、来年度はゼロエミ住宅補助金に加えて、断熱改修と太陽光発電496億円ということで、太陽光義務化に向けてたくさんの補助金を出していく。たしか去年ですか、全自治体の区長さんと東京都知事の対談というか要望があったと思うんですが、そこでも世田谷区長は脱炭素政策を進めてくださいということをお願いされていて、その効果もあって、東京都の政策も進んでいるというところで、そこをぜひ織り込んでいただくと、57.1%は全然高いものになる。

現在の案では、東京都の政策という文字を付け加えていただいたんですが、計算には入られていないようですので、それらをきちんと計算していただくと、66%というものも世田谷区の目標として明示していただいているのではないかと考えています。

例として申し上げますと、断熱、太陽光というのも、今世田谷区の計算はこちらのスライドですね。国の対策効果というのは全国平均で計算されています。ただ、世田谷区はもともと先進的に、先ほどの世田谷みんなのエネルギーさんとかが取り組んでいらっしゃいますので、さらに東京都の補助金もあるということで、全国平均より、どう見ても断熱性の高い住宅や太陽光が普及するだろうということが言えると思います。

2点目として、EVについて、〇〇の本社が世田谷区にあるんですけども、〇〇としても、現状は自社内のCO₂はゼロにすると言っているんですけども、配送に関わるものとかも何とか減らしたいと模索をしておられると聞いて、私たちにも相談をいただいているところです。あと、〇〇、〇〇、〇〇もEVの導入目標というのを発表されていると思うんですが、それを世田谷区のある一定地域、あるいは世田谷区全体でより普及していただくということで、交通分野からもCO₂を減らすことができるのかなと思います。そういう民間企業の方たちが、どこからどこに効果的にCO₂削減策をやっていくかというところを考えていただいたときに、世田谷区というのが非常に当てはまるのかなと思っています。

ということで、まとめとしては、世田谷区が日本一の脱炭素目標を掲げていただいて、政策を推進していただきたいということでございます。よろしくお願いいたします。

○環境計画課長　ゼロエミ世田谷の皆様、どうもありがとうございました。

続きまして、この後、各団体同士及び区との意見交換を開始いたしたいと思っております。本日の意見交換は、日頃の活動により区民、事業者などの環境行動をリードしている皆様方が、団体同士で意見を交換することによって、今後の団体同士での交流や連携、協力につなげ、脱炭素に向けた区民、事業者、区との連携、協働、共創や、各主体の取組の推進につなげていくことを目的に実施したいと思っております。先ほども御意見ございましたとおり、区民、事業者の方々の裾野をどうやって広げていけるのか、また団体の皆様なら、これからどう行動されることによって効果が生まれるかなど、活発な御議論をぜひお願いしたいと思います。

また、意見交換を始める前に、意見交換の際の注意事項を簡単に御説明させていただきますと思います。

まず、オンラインと会場共通の注意事項として、御発言の前には必ず団体名とお名前をお知らせください。

次に、オンラインの方の注意事項を申し上げます。発言を御希望の場合は手を挙げるボタンを押してください。順番に発言者を指名してまいりますので、指名された方はミュートを解除して発言をお願いいたします。発表が終わりましたら音声をミュートにさせていただいて、手を下ろすボタンを押してください。

次に、会場の皆様への注意事項でございます。会場で発言を御希望の方は挙手をお願いいたします。順番に発言者を指名させていただきますので、マイクをお受け取りになって御発言をお願いいたします。

それでは、ここからは世田谷区長のほうにお願いいたします。

○区長　まず6つの団体から、活動期間が非常に長い場合は、時間的な制約でちょっと足りなかったかもしれないんですが、大変中身の濃い報告をありがとうございました。

本日の気候危機区民会議は、本当にまずここからスタートしていくという意味で名づけているわけで、もちろんこれで終わりというようなことは全く考えておりません。今日は、私、区長、環境政策部の部長以下、担当者も来ております。できれば、区とのやり取りでここはどうなっているんだということだけではなくて、私としては、あるいは区として、この気候危機区民会議自体、世代も子どもたちから高齢の方まで、また、海外から日

本に住まわれている方とか、障害のある方とか、まさに多様な方々が、やっぱり共通に命の問題で今迫ってきていますので、どうやったらそういう幅広い会議ができるんだろうか。そして、今6団体の皆さんからあったような様々な御活動、提案というものを、それぞれより広く、6団体に限らずもっとほかにも、例えば昨年から取組みを始めた皆さんとか、昨年ですが、区内の中学校で校長先生が音頭を取って、有志という形で中2、中3の子たちがプレゼンテーションしてくれたんです。プラごみ問題とか、その中には生ごみの問題に触れたものもありました。やっぱり、彼らもいろいろ考えているし、行動しなければという意識はあるんです。

率直に言って、世田谷区は大変大勢お住まいで、しかしながら、区でこういった区民会議をやる。それによって何が変わっていくんだろうか、果たして、何か有効な議論ができるのか、あるいは自分がそこに参加して意味があるのかというところが、いま一つ私たちの力不足もあって伝え切れていないように感じます。

なので、実際にヨーロッパ、あるいは世田谷区以外の市民会議もあちこちで開かれています。どうしたら幅広く大勢の方が参加して、なおかつスピーディーな、提案に対して区のほうでもしっかり検討するような体制というのをつくれるのか、ぜひ、そのあたりの参考意見を残り1時間の中で伺えればというふうに思っております。

御発言はできれば2分ぐらいで、長くても3分以内ぐらいでお願いできればと思います。どなたからでも。では、まちづくりの仲間たちの〇〇さんかな。

〇まちづくりの仲間たち まちづくりの仲間たちのメンバーの〇〇です。今日は大変有意義な会だったなと思っております。多くの団体から環境に対してどういう活動をしているかということの話を聞かせていただいた、これは大変意義があったと思います。

ただ、〇〇代表のほうからも言いましたけれども、まちづくりの仲間たちというのは、ほかの5つの団体と違った性格でありまして、具体的に実際に環境に対する活動をしているというよりは、区が行っている政策について、こういうことをもっとしたらいいんじゃないかというような提案とか建議とか、それを対象にした意見交換というようなことをやっているものですから、ちょっと性格が違うんです。

ただ、私がぜひ聞きたいのは、ほかの5団体の方、最後のゼロエミ世田谷の方は大変いろいろな具体的な提案をされましたが、ほかの団体の方はどっちかというと活動内容、これも大変立派なこと、素敵なことをやっておられると思うんですが、そういう活動をやっている中で、世田谷区にもっとこういうことをしてほしい、区の今のやり方をこういうふ

うに変えたら、もっと環境の意識が区民の間で高まるんじゃないかとか、そういう点についてどのように考えておられるかというのを、ぜひほかの団体の方からお聞きしたいなと思います。まさに最後にも出ていましたけれども、他のグループと連携するというのは、私どもとしても1つの重要な課題なものですから、そこでいろいろ共通項を見いだすことができれば、今後そういう形で活動を継続していきたいなと思っております。

それから2つ目ですけれども、区長にお聞きしたいのは、私どもが提言した区長直轄の組織を区の行政組織の中にきちんとつくって、環境計画課が全体の音頭を取って、予算の一元化、権限の一元化も含めて、縦割りじゃなくて横割りで環境対策を強力に推進していく、こういう体制をつくってほしいということを行っているんですが、それについて区長はどのような考えをお持ちなのか、お聞かせいただければと思います。

○区長 一番最後のほうから言いますと、宣言を出しっ放しじゃもちろんいけないと。なので、宣言をした後に、世田谷区では定期的に全部長が参加する部長会というのをやっているんですが、その後に気候危機対策会議、インターネットで引くと会議の記録がいっぱい出てくるんですが、かなり頻繁にそこを開いていまして、この設置目的は、21の所管からいっぱい答えが来たというようなお話がありましたけれども、これはやっぱり相当呼吸を合わせて、今までできないと言われたことを突破しないと、この問題は動かないという判断で、そういった会議体を持ってきました。

さらにということ言うと、今、ゼロエミ世田谷〇〇さんなどからも、もっと目標を上げられないかという御提言もありましたが、本当に世田谷区役所自体が大変多様な、同時並行でいろんなことをやっています。そこの中のエネルギーや環境、ライフスタイルに関わる部分で、本当に議論したことが即座に動いていくような行政組織体というのをつくらなければいけないというふうに思っています。

次に、できればご意見は1つにしてほしかったんですが、まちづくりの仲間たちの〇〇さんの1番目の議論ですね。他の団体の方は、区の取組、連携したり、広げたりということにどんな思いが、御自分の活動は分かったけれども、どんな御意見ですかという問いかけがありましたので、もし、私たちはということがあれば御発言いただきたいと思えます。いかがでしょうか。

○まちづくりの仲間たち その前に、確かに気候危機対策会議があって、会議をやっているということは私も承知しているんですけれども、連絡会議ではいけないんですよね。本当はね。その点についても、ぜひ考えてください。

○区長 それだけで終わるつもりはありませんよということを今申し上げたつもりです。

○まちづくりの仲間たち だから、予算権限の一元化というのが非常に重要だと。国の組織も環境省と各省庁といろいろ縦割りになっていて、そういう問題点があるんですけれども、世田谷区では、ぜひその辺を課題として対応していただきたいと思います。

○区長 では、世田谷みんなのエネルギーの〇〇さんが手を挙げられました。

○世田谷みんなのエネルギー 再度、世田谷みんなのエネルギーの〇〇です。先ほどの発表資料、早速ちょっと、この場で訂正したい。何か自分で話しておかしいなと思ったんですけれども、世田谷区内の再エネポテンシャルがほとんどないという話だったんですが、今見返してみたら6100テラジュールほどあって、区内で使っている電気が1万2000テラジュールと出ていましたので、実は屋根全部に乗せられた半分、現在の半分の電気が賄われているということで、ゼロエミ世田谷の〇〇さんあたりが訂正してくれたらよかったですけれども、すみません、間違いでしたので、太陽光もぜひ進めていただいて。

区への提言といいますか、区に限らず、区民への提言ですけれども、発表の中にもありました、こういうデータをきちんと見ると、ある意味やるべきことはもう分かっているんです。これをどうやるかというのが問題なので、まだそういうデータをきちんとみんなに、普通の区民には退屈かもしれませんが、それをきちんと見て、その上で、じゃ、どうやったらできるんだろうか、どうしてもできないというところはどこなんだろうか、太陽光発電をしたくてもお金がない人はどうすればいいのかとか、そういうところをみんなで話し合うような会を区のあちこちでやれたらいいなと思っています。

○区長 ほかの団体の方でございますでしょうか。オンラインの方は。では、まちづくりの仲間たちの〇〇さん。

○まちづくりの仲間たち 1つじゃなくて2つになっちゃうかもしれないんですけれども、CO₂の排出量とみどりの関係というのは、これは誰でも分かる話ですね。世田谷区はみどり33というのを大分前から区の施策として挙げております。しかし、残念なことに、去年の調査でみどり率が落ちている。ということは、先ほど最後の団体の方が発表したように、世田谷区の目標値を幾つと出しましたけれども、実際に数字だけ出しても、どういう形でそれを持っていくか具体性がないと、ただただ言葉だけ挙げてもしようがないんです。

先ほど区長が、私の聞き間違いだったらごめんなさい。議論をして何が得られるのかということを経験のほうにちょっとおっしゃったと思うんですけれども、議論したり、意見

を交換するという事は、お互いにいろいろな考えがありますから、それを何回も繰り返して行くことによって、1つの環境に対する哲学が生まれるんですよ、議論というのは。これは古代から、ヨーロッパはずっとそれをやっているんです。プラトンの時代から議論をずっとやっているわけです。それがヨーロッパのコミュニティーになっているんですよ。だから、議論して何が生まれるじゃなくて、議論しなくちゃいけない。行政はその場をつくらなくちゃいけないんですよ。我々はそういうことを言っているんです。だから、みどり33にしても、目標をまだ全然達成できていないわけです。

○区長 分かりました。まちづくりの仲間たちの〇〇さん、多分、最後の議論して何が生まれるんだという考えは、私は毛頭持っていないので、聞き違いだと思います。それと、みどり33にどんどん近づいていかなければいけないところが、実際に下がってしまった。その5年前はちょっとだけ上がったんですけども、なかなか厳しいのは本当にそのとおりです。現在、公園整備は今かつてないぐらいに、大型の国家公務員住宅跡地を3か所、計9ヘクタールですけれども、整備に入っています。ただ、そうやってみどりをつくりながら、一方で、お屋敷に住まわれていた方が売却して細切れ住宅になると、みどりが完全にゼロになる。まだ集合住宅のほうがそれなりに残る場合もあるんですが、そういったことがすごく大事だと思います。

今日、ゼロエミ世田谷の〇〇さんが言われていた数字の問題がありました。意欲的なところも基準の数字にできないか。まちづくりの仲間たちの〇〇さんが今言った、こういうものを掲げて、具体的にどういうふうにするのかというところまで行かないと、という話が出ているので、私から代わってというか、主に取り組んでいる環境計画課長。

○環境計画課長 私のほうから少し御説明をさせていただきます。今回の計画、この間、区議会のほうにも御報告させていただいたんですが、団体の皆様方の多くは、多分、環境審議会の傍聴ですとか、資料を御覧になっていただいていると思うんですが、今回の計画は環境審議会議長を中心に進めてきたんです。最後に環境審議会議長からも提言をいただいております、要するに、今のままでは57%というのが難しいんじゃないの、かなり背伸びしているんじゃないの。でも、この間は、資料は今日お持ちしていないんですが、この後、ホームページに計画案が載ると思いますので、特に資料編のほうで、その辺は積み上げさせていただいています。

あと、この計画は通常の計画と違うところが、審議会の議論でもあったんですが、世の中の動き、温暖化、気候危機がかなり速いんですね。進むのも速いですが、その対応を追

っかけている部分も一部ですが速い。そういう部分の中で、今計画書の資料編のほうに、まだ取り組んでいない、要するに議論できていない施策は結構ありまして、この資料編にはそういうものを載せさせていただいております。その中で、今66%ということで野心的な目標も掲げさせていただいて、まずは2030年度に向けて、今取り組んでいない、具体的に施策に落ちていないものを一つずつ積み上げていって、世の中の動きと連動しながらどんどん進めていきたい。そういう新しい施策を一つずつ積み上げていくことによって、その目標に近づいていくんじゃないかという感じで考えております。

今、ゼロエミ世田谷の〇〇様のほうからも御提言ありましたけれども、我々も目標57.1%で満足するのではなくて、これを一つずつ積み上げて、なるべく高い目標に、毎年のように新しい施策を考える。考えていきながら、逆にその考えたことを、ただ単に自分たちで抱えていてもしょうがないので、今日お越しの皆様の方の力を添えをいただきながら、一番最初の団体からお話がありましたように、1人が一生懸命やるよりは、たくさんの方がいろんな活動に取り組んでいただく、意識を変えていただく、そういうことに皆様と共に歩いていけると、逆にそういうものも、もう少し実現性が高くなってくると考えております。

〇区長 では、生ごみリサイクル全国ネットワーク〇〇さん、御意見いただきたいと思えます。

〇生ごみリサイクル全国ネットワーク ちょっと話がずれるかと思うんですが、世田谷区はみどりを非常に大事にしていらっしゃるんですけども、植木剪定枝、雑草、落ち葉、そういうものをみんな可燃ごみとして集めているわけです。あれは非常にミネラル、特に必須ミネラルの宝庫なんですね。それを全部埋立地に捨てているという非常にもったいないことしているわけですから、世田谷区がまず先頭に立って、最初から生ごみはちょっと無理としても、植木剪定枝、雑草、落ち葉、そういうものの資源化をして、そして有機農業を実践している地方の自治体にそれを送って、有機栽培したお米を手に入れて、学校給食でできるだけ有機栽培の作物を子どもに提供していただきたいなと思うわけです。

〇区長 この間の区と区民の連携の活動の中で、落ち葉拾いの自主的なグループの皆さんが、相当大勢で何コースかで落ち葉を集めるという活動を始めて、もう何年目かになっています。おっしゃるように、どんどん燃やせということではなく、できるだけ堆肥化したり、あるいは焼却によらない再生をより広げていくことが大変重要だと考えています。

先ほどからお話があるみどりも、グリーンインフラという政策を進めています。2月1

日でしたか、国土交通省からグリーンインフラ大賞という賞がありまして、下北沢のくぼ地に造った雨庭広場という、そこに雑草や薬草も生えている、そういった原っぱを再生した。何もしなければ自然に原っぱになるんですけども、そこを少し管理しながら、駅前にそういうみどりができたということで、大変好評というか、そこに150人近い人が園芸部という一般社団法人に入って管理を始めています。これは具体的だから多くの人が集まり、活動も線路跡地の上のみどりを管理するというボランティアで、核になる方は有償の方も何人かいらっしゃるんですけども、非常に分かりやすい活動で、やっぱりどんどん人が集まってくる。

この気候危機の問題って、ものすごく情報量の差があるんです。片や、ものすごく国や国際的な資料を全部押さえていらっちゃって、御提案をいただく。私もゼロエミッションの会に出て随分勉強になりましたし、〇〇さんという方が提案していただいた、なるほど、こうやっていけば世田谷のCO₂削減に1つ道筋があるじゃないかと分かったんですけど、ちょっと悩んでいるのは、情報がたくさんあって、すごく意欲的な皆さんと、一般的に環境の問題は大事だけれどもよく分からないという多くの人たちを、どうやって包摂して、その輪を広げていくかというところが、まだいま一つ。ですから、環境学習会の皆さんが環境フェスタで、もう長年にわたって傘の再生とか、いろんなことをやっていらっしゃるようなことはすごく貴重だと思うんです。

そういう意味で、段差というんですか、取組みとか知識とか問題意識が非常に高い方、深い方、それから、これから考えるよという大勢の方、そこをどうやって埋めていくか。

そしてもう一つは、子どもを必ず招いて、要するにプレゼンテーションも。今日はこういう時間帯ですから子どもさんは招いていませんけれども、何かそのあたりありますか。○世田谷みんなのエネルギー 世田谷みんなのエネルギーの〇〇と申します。今日は、世田谷みんなのエネルギーということで出ているんですけども、皆様のお話を伺って、世田谷区の過去30年、40年、本当にすばらしい活動をしてきているんだなというのを感じました。私自身、今はエネルギーとなっていますけれども、一番最初は松葉のダイオキシン調査というのをやっていました。そして、ごみ問題ですね。

その前を考えると、世田谷区主催の消費者何とかかんとかという会議が、多分33年ぐらい前だったと思うんですけども、何も分からずに、どこで手を挙げたのか分かりませんが、そういう会議に出たことがあります。そこでいろんなことを言い合うというんですか、その頃の消費者問題というと、消費者がだまされるみたいな、それからどここの

値段を、物価が高くなったからとか、そのような話題がいっぱいありました。そこから、こういう場に参加するきっかけができたんだなと思うと、区の中にそういうチャンネルというんですか、いろんな人が参加できるチャンネルが、いつもいつもあったんだなと思うんです。

ただ、90万人もいて、なかなかそのチャンスにたどり着ける人が少なくなっていることは確かかと思います。私も世田谷区に転入して、どういうきっかけか忘れちゃいましたが、そんな会議に出たことをきっかけに、ごみ問題とか、消費者問題とかに興味をすごく持つようになって、今に至っているということを考えたときに、今ゼロエミの方たちとか若者が、本当に気候危機の問題を危機に思っている子がいます。この先、どうなっちゃうんだろうという漠然とした不安とか、そういう人たちから、また私たち親世代でも、これから先の子どもたちはどうなっちゃうんだろうという漠然とした不安、そういうのを言い合える機会があったら、もっとみんながいろんな身の回りの環境から、地球環境から、世界の問題に意識が上がるんじゃないかと思いましたので、その仕掛けができるのが行政じゃないかなと感じました。

○区長 オンラインのほうからもお手が挙がっておりまして、まず、えこひろばの〇〇さん、そして、ゼロエミ世田谷の〇〇さん、〇〇さんも、その後で御発言いただきます。

えこひろばの〇〇さん、声は届いているでしょうか。御発言があったらお願いします。どうぞ。

○えこひろば 手は挙げていなかったんですけども、私も今の世田谷みんなのエネルギーの〇〇さんのお話を聞いて、やはり同じようなきっかけで、世田谷区でたまたまごみ問題について勉強する機会があって、それに参加した理由は、ごみがこんなに増えて大丈夫？と思っていたので、もうちょっと知りたいということで参加したんです。それがきっかけでだんだん抜けられなくなったということはあるので、やはりそういう機会をつくっていただきたいとはすごく思います。今、危機感を持っている方はかなりいらっしゃるんで、そういう方が参加しやすい場、難しい勉強会という形になるとなかなか参加しにくいんですけども、もうちょっと知って自分でできることを探してみない？みたいな優しい働きかけができると、もう少し参加する方も増えるんじゃないかと思っています。

○区長 区のほうも繰り返し繰り返し、いろいろなテーマで参加しやすい工夫をしながら、呼びかけも続けていきたいと思っています。

それでは、ゼロエミ世田谷の〇〇さん、〇〇さん、続けて御発言いただけますでしょう

か。

○ゼロエミ世田谷 ありがとうございます。66%を目標にということについて、環境計画課長から御説明いただいたんですけども、やや世田谷区のポテンシャルを低めに見ているのかなという感じがいたしまして、環境審議会でも国はそもそも46%をできないんじゃないかというのを環境審議会長と環境審議会長が招いた後輩の事務次官の方が発言されていたと思いますが、その辺は国のお話なので、世田谷区ができないという話とかを、ちゃんと見て言うておられる話ではないのではないかと思います。

私たちは、具体的に、世田谷区が計算されているものを見て、できることが継続されていないということを申し上げていますし、もし、環境審議会長が厳しいということをおっしゃるのであれば、私たちやシンクタンクの方や大学の先生なども含めて具体的に議論をしたり、お手伝いをしたりという用意がございます。建築の専門家の方も環境の専門家の方もいらっしゃいます。環境審議会長は本当に素晴らしい方で、エコ住宅、さらに賃貸のエコ住宅というのをやっていらっしゃるんですけども、環境審議会での発言については、ちょっと根拠がなかったかなと思っていますので、自信を持って進んでいただけたらなと思います。

1個だけ、具体的な話としては、区の施設の太陽光発電パネルの搭載というのが、世田谷区が一番初めにやって進めてきていると思うんですが、ちょっとスピードが落ちてしまっていて、このままだと50年ぐらいかかるのかなというスピードになってしまっていますので、ぜひもう一度、どんどん進むようにしていただけたらなと思うんです。御承知と思いますが、東京都の再生可能エネルギーの補助金が昨年6月から自治体にも出るということになって、3分の2の補助がありますので、今、区もそうですし、区内の学校とか、福祉施設とか、様々なところが3分の2の補助金をもらって、太陽光をつければ今の電気代高騰ということにも対応できます。東京都の補助金はやや余りぎみですので、取りあえず、あと数年はやったもん勝ちという状況ですので、そういったところも活用いただければなと思います。

○ゼロエミ世田谷 続けてですけども、先ほどの多様な世代、若者から各年代を巻き込むであるとか、中間層ですね。気候変動や環境問題に対して、まだそこまで関心がない人たちをどう巻き込むかということなんですけども、先ほどの自己紹介の中でも紹介した気候市民会議というのが、1つのソリューションになってくるのかなと思っています。気候市民会議というのは、無作為抽出と言われているんですけども、そのコミュニティ

一であるとか、国や自治体とかの中で、小さな100人の村をつくるような感覚で、その人口比率とか属性ですね。会社員、学生、主婦、そういう属性も全て加味した形で参加者を抽出して、そこには環境問題に関心ある人も、ない人も、両方入ってくるというところで、そういった方々に入ってもらって巻き込んでいくというのは、1つ解決策になるのではないのでしょうか。

○区長 ありがとうございます。ゼロエミ世田谷の〇〇さんがおっしゃった、いわゆる気候危機市民会議、区民にとっては区民会議ですね。世田谷区でも11年ほど前から、くじ引きで招待状を送りまして、これが当たったというか、送られた方が参加していただくというような区民参加型ワークショップをかなりやっておりますので、この方法も、この課題で、例えば今おっしゃったように、年代やそれぞれの属性に分けて御案内するというのも1つのやり方で、ぜひ参考にしたいと思います。

もう一つ、ゼロエミ世田谷の〇〇さんのほうからございました、区の太陽光パネルの設置状況、それから目標数値の話、いかがですか。

○環境・エネルギー施策推進課長 環境・エネルギー施策推進課長の〇〇でございます。太陽光パネルの設置状況でございますが、区の施設で先ほどの屋根貸しなどをしている部分ですとか、あるいは公共施設で乗せているものもございます。今ちょっと正確な数字は手元になくてお伝えできないんですけども、特に今年度進めていますのが、中学校の屋根に太陽光パネルを乗せるということで、これも民間事業者の力をお借りしまして、PPA事業ということで進めているものがございます。

1つの事例としての紹介になりますが、中学校の6校の屋根に太陽光発電を設けまして、災害時にも利用できるような形で設置しまして、発電はこれから開始する予定であります。また、これにつきましては来年度も引き続き、全体で14校を目指しているんですけども、準備を進めていくということでやっております。

また、学校の改築、改修に合わせて、太陽光パネルを置けるところには置いていくということで進めております。これも今、正確な数字を持ち合わせておりませんのでお答えできないんですけども、区の公共施設の太陽光発電の設備設置ということでも進めてはいるんですが、おっしゃられるようになかなか進まないところもありまして、そこはこれから計画も立つところですので、どんどんと積極的に進めていきたいと考えております。

○区長 御指摘があったのは、一番早い時期に世田谷やエネルギーとか、屋根貸しも都内でも比較的早いうちに始めて、スタートは早かったんですが、その後、勢いがいささか落ち

て、あと50年という厳しい御指摘もありました。今、環境配慮型住宅リノベーションの補助金がだんだんと広がってきて、使っていただけるようになり、来年度の4月から太陽光発電についてもいろいろ補助金を出すと。不正確なことを言うといけないので、所管部長に説明を代わります。

○環境政策部長 環境政策部長の〇〇でございます。環境配慮型住宅リノベーション事業では、太陽光発電のパネルの設置に対して昨年度から補助しております。また、今度の4月以降、予算が通ればですけれども、新築住宅の太陽光パネルにも補助を広げていこうということで、東京都の義務化と足並みをそろえる形で、区民の方の応援をしていこうということで今考えております。

○区長 あと、環境審議会長の46%を国が本当に達成できるかということと、ゼロエミ世田谷の〇〇さんがおっしゃっているのは、具体的に項目の中で、この項目はどうなのというようなところで、いろいろ専門家の方も含めて指摘し、また、区のほうで実際にリアルな数値目標を挙げるならサポートもしますよという御提言もいただいているんですが、そのあたりについてお答えしてください。

○環境計画課長 ゼロエミ世田谷の〇〇様、いつもありがとうございます。今、ゼロエミ世田谷の〇〇様にも背中を押していただいたなというふうに感じておりまして、もう少し具体的に、先ほどの話と重複してしましますが、今まだ取り組めていないものもございまずので、そういったものをまた〇〇様にもアドバイスをいただきながら、新しい施策を考えていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

○区長 オンラインのほうで、世田谷環境学習会の〇〇さんと〇〇さんがお手を挙げていらっしゃるということなので、お2人続けて御発言いただけるでしょうか。

○世田谷環境学習会 環境学習会の〇〇のほうからよろしいでしょうか。

○区長 お願いします。

○世田谷環境学習会 いろいろとありがとうございました。オンラインだと音がハウリングして、なかなか実際の会場の皆さんの御意見が聞こえないところもありまして、ちょっと的が外れているお話もするかもしれないんですけれども、その辺は御了承いただければと思います。私からは3つ提案というか、テーマをお伝えしたいと思います。

まず1つは、この気候危機区民会議でせっかくグループの皆さんが集まったので、何かいろんな団体の方、シンクタンク系の方もいらしたりとか、あとは提案型とか提供型とかもあるので、皆さんのグループの御意見とか御希望とか、世田谷区様の考えを一まとめに

して、環境学習会のパワポでも御説明しましたが、何かテーマを決めて、目標を1つみんな決めて、ゴールできるかどうか分かりませんが、共通の目標とゴールを決めていただければいいと考えております。そこが1つの希望になります。もう一つは、これからは気候危機区民会議を定期的に継続してやっていただきたいというのが提案です。

2つ目は、やはりいろいろな政策系の御意見が、プロに近い方とか、ハードとか、太陽光発電とか、建築とか、そういうところを御提案されている専門の方もいらっしゃいますので、もし機会があれば、審議会というのがありますよね。区議選が終わった後、6月ぐらいから始まるというふうに伺っています。そういう中にも、今現在、環境グループの方もメンバーとしていらっしゃるというのは伺っているんですけども、もし可能であれば臨時委員みたいな形で、今回参加しているグループの中から1名とか、御希望のある方、現在いる方もいるかもしれないんですけども、各グループから1名、希望があれば臨時委員という形で参加していただいて、専門的なところは、そこでもう少し議論していただくような機会を設けていただけないかなというのが2つ目の希望になります。

3つ目、最後の希望なのですが、やはり私たち世田谷環境学習会というのは、提案型、提供型の学習会ということで、学習がメインです。ですので、事業とか、区がどうしているとかというのではなくて、実際に私たちが住んでいる区民の皆さんに提供できることを、日々自己研さんしてというか、学習しながらいろんなプログラムをつくってやっております。以前は区のほうで主催でやっていただいたスタッフ養成講座というのがありましたけれども、今は自主的になってしまったので、もう少しいろんな団体もあると思いますので、そういうのをいろんな形で区のほうで場を提供していただけないかなと。

さらには、2050年、2030年という目標を掲げておりますので、そこに行くためには、途中でお話もありました中間層の関心を高めるとか、子どもの環境教育というのもありましたので、今現在小学生とか中学生の方が、今からそういう提供をして学習していただければ、2030年には成人になって、またその成人のときにはいろんな環境の知識を持って、新しい若い人たちが活動できると思いますので、そういうような子どもさんとかの学習の場を提供できる、私たち環境学習会みたいないろいろなグループがありますので、そういう機会を設けていただきたいというのが私の希望になります。

ちょっと長くなりましたけれども、私からはその3つを御提案させていただきます。

○世田谷環境学習会 世田谷環境学習会の○○です。2つお話をさせていただきたいと思うんですけども、1点目は、今、○○がお話ししたことと少しかぶるんですが、我々が

活動をやっていて感じたことですが、やっぱり活動の場というものを継続させてほしいなと。先ほど、世田谷環境学習スタッフ養成講座がなくなっちゃって、跡形もないというふうになっているんですけども、例えば具体的に言うと、環境エネルギー・ラボというのに私どもは長年参加してきたんですね。これは子ども、家庭で参加して、しかも、参加者の中にはNPOがいたり、大学が入ったり、一般企業が入ったりとか、川崎市なんかもいて、非常に幅広い活動だったと思うんですけども、形を変えるとということで、区は共催から外れて、活動自体が非常にシュリンクしてしまったんです。

やっぱり、こういったものを継続してやっていただかないと力にならないんじゃないかなと思うので、時代の変化とかに対応することも大事なんですけれども、それはそれできっちり総括した上で、こういった活動を継続したことによって、我々の団体なんかもそれに参加して活動ができるということで、活動の場を確保していただくということも大事なので、そういう継続性というのをもうちょっと考えていただきたいなと思います。

それから2点目ですが、区民の関心をもっと広げるという議論が出ております。それに関してですが、やはり気候危機市民会議ですとか、研修というのも大事ですけども、それと併せて区の行う施策というのを、もうちょっと幅広い対象を考えて、みんなが関心を持つところに持っていかないと広がらないんじゃないかと思っています。具体的に言うと、建物重視なのは分かるし、それは正しいと思うんですが、どちらかという戸建ての、しかも、結構意識が高くて、お金の余裕のある人を対象にしたような補助金的な施策とか、そういうのを中心にしても、どうしても対象が限られちゃうんです。

それよりも、もうちょっと対象を広げるとしたら、区民の大部分というか過半数以上は、やっぱり共同住宅に住んでいるわけです。共同住宅に住んでいる人に分かるような対策を打っていく。これは計画説明会的时候も申し上げましたけれども、今団地の再開発とか、そういったものが非常に世田谷区は多いですね。それが都営住宅だから区は関係ないみたいな話もありましたけれども、そうじゃなくて、そういうところを使って、地域で分かるような形で対象を広げる施策を今後考えていく必要があるのかなと思っています。

以上2点、ちょっと質問と兼ねて意見を言わせていただきました。

○区長 お2人の提案や意見をいただきました。私から答えられるのは、世田谷環境学習会の〇〇さんがおっしゃった、今日の会議をぜひ続けていってほしいと。同じ形で続けるというよりは、もっと広げていくという意味ですが、これはぜひ続けていくようにしたいと考えています。その上で、審議会に臨時委員のような形でというお話もありました。そ

それぞれの専門的な課題について深めるような機能というのを、ちょっと先走りますが、こういった区民会議というのが、危機がどんどん進んでいく中で、具体的な議論で政策に転嫁していくような、そういう専門家も含めた深掘りした議論と具体的な対策、政策が必要だという御提案だったと思います。どのような形でそれを実現するのか、ちょっと検討させていただきたいと思います。また、子どもたちも含めた様々な啓発や実験や提案、ぜひこれからもそういう場を私たち区のほうで提供していきたいと思います。

環境学習会の皆様とは、たしか十一、二年前にお会いして、お話を聞いていたことを思い出しています。やはり、区でかなりコミットメントして、養成講座というのをやってきて、それがだんだんと手が離れてきたということで、いい面もあると思うんですが、やっぱりそういう養成講座という形で、これだけの多面的なグループが今なお存続して頑張っているという中で、かつてやったものと同じということではなくて、でも、そういった市民活動や自発的な活動をサポートする、一緒に考える、そういったことは取組みが必要だというふうに思いました。

あと、世田谷環境学習会の〇〇さんのおっしゃった中で、環境エネルギー・ラボについては、私は経過の詳細を存じ上げないので所管課から。どうして縮小というか、要するに継続してほしかったという話ですよ。その事情とか、今の考えとかがあったらお答えしてください。

○環境計画課長 では、私の方から御説明させていただきます。環境エネルギー・ラボですが、昨年ですか、私が担当していたときに、今後どうしていこうかというお話の中で、一定の期間が経過したものですから、今は環境エネルギー・ラボを1回休止させていただいて、若者環境フォーラムとか、若者にとにかくターゲットを絞って、そういうふうなものに移行してきているという状況です。今年度も、要するに、まずは若者が中心になって、自分で企画して動いていくというような話のものに、シフトしてきているという状況になっております。

また、今回御提案いただきました活動の場づくりというものは、事業部門のほうと、また御相談しながらの話になってしまいましたが、そういったものも今日御意見があったということで、今後検討していきたいというふうに考えております。

○区長 もう一つ、戸建てを中心とした補助金政策が多いんじゃないかという御指摘は、確かにそのとおりでありまして、これは結局まだ実っておりませんが、マンション

等共同住宅で自然エネルギーが使える、例えば、すだれソーラーのような技術開発ができないか、また、それをコンテストして、各メーカーに開発を促すみたいな、そういうアイデアは大分検討したことはあります。技術的に当時は難しいということで、8年ぐらい前ですけれども、そのままになっています。多分、共同住宅でいろんな規約とかがあって、太陽光を置くのは難しいとか、いろんな事情はあると思いますけれども、マンション管理組合として取り組めることや、あるいはベランダで取り組めることを重点的にやっていると、戸建ての補助金を幾ら増額しても、ちょっと分断が起きてしまうというふうにも思いますので、御指摘ありがとうございます。

残り時間が少なくなっているんですが、あと2人ぐらい御発言を受けたいと思います。○まちづくりの仲間たち 皆さんの御意見を聞いていろいろ質問したいことがたくさんあるんですけれども、時間が迫っているので、端的にお話しさせていただきます。

1つは、ゼロエミさんにお聞きしたいんですけれども、世田谷区で毎年多くの建物が壊されている。特に公共建築物も壊されていると思うんですが、そこから出るCO₂がどのぐらいかというのは調査されましたか。もし調査なさっていて分かったら教えてほしいということです。

それから、先ほどから子どもの環境というお話が出ていますけれども、世田谷区が小学校、中学校で子どもに良好な環境を与えているかという、私は決して与えていないと思っています。まず、エアコンを使って教室を冷やす。これって一番、CO₂に対して子どもの教育にならないじゃないですか。小学校というのは、西か南に大きな窓が開けられているんですよ。そこに落葉高木樹を立てれば、それともう一つ、窓のひさしを60センチ以上出す。そうすると、夏の日差しは教室に入ってきません。冬の日差しは入ってきます。そういう物理的にできることをやらないで、その劣悪な環境の中でエアコンでみんな学習しなさいというのは、これは環境に対して子どもたちに考えさせる場になっていません。常緑高木をつくれれば、その下に風が抜けると、大体5度か6度温度を下げると言われているんです。そうしますと、36度あったら、31度か30度で教室内の環境が済むわけです。まず、そういう具体的に、物理的にできることを予算化して、小中学校でやっていく。その中で初めて、どうしても体育館はエアコンが必要だよねとか出てきたら、それはそれで考えなきゃいけないと思うんですよ。短絡的に、エアコンで涼しさを取ろう、暖を取ろうというような考えは、子どもたちに環境教育する場にはっきり言ってなっていません。

それと、私は建築家として太陽光パネルを屋根の上に乗せるのは大反対なんです。だから、東京都知事の政策は間違っていると思っています。というのは、太陽光パネルが作られる過程、廃棄される過程、これによって出るCO₂を含めて考えているのか。それから、パネルに乗せるだけじゃ駄目です。蓄電池を置かないと、太陽光パネルがつくった無駄な電気は売電するしかないんです。それを買ってくれなくなったら無駄になります。ですから、流通、生産、廃棄、そういうことも含めてCO₂の問題を考えた中で、太陽光パネルが最適なのかどうか。建築的には開口部が一番熱のロスが多いんです。ですから、二重窓を推奨する。特にマンションなんかは二重窓を推奨してあげれば、大分熱のロスが少ないです。それか遮熱シートを貼らせる。できることはたくさんあります。ですから、そういうことを一つ一つ、やはり施策の中で実行して、毎年これだけやったら、これだけのCO₂が削減できたという具体的な数字が出せると思うんです。

○区長 続けて、まちづくりの仲間たちの〇〇さん。時間が迫っていますので、短めをお願いします。

○まちづくりの仲間たち 私は他のグループへの質問というよりも、ちょっとまた区へのマクロ的なお願いというか、検討いただければという意味での意見を2つ申し上げておきたいと思います。

環境審議会から12月5日に答申が区のほうに出ていると思いますけれども、その中で、1枚ぺらの中でまとめてみると5つの項目があったと思うんです。野心的目標云々、区民間の協働の問題とか、この辺は議論が今までの中であったと思います。それから、行政計画の策定や実施に必要な配慮、連携、これも私は申し上げたところだと思いますけれども、司令塔云々というようなところの話かなと思っています。

2つ残っているというのは、他の自治体との連携と進捗管理、PDCAを確実に実施するという、2つの点で、まだ今日は具体的な議論がそんなに出ていないのかなと。今日、〇〇代表は太陽光パネルは大反対という話でしたけれども、具体的に太陽光パネルを全国的に進めている中で、つい最近、津南町の水力発電で売電するというようなことが区から出ています。これをもっと推進していくということが、審議会の答申の中にもあったと思うので、それこそ先ほどの具体的にこういうノウハウを持っている人たち、あるいはアドバイザーなんかも含めて、もっと推進していけばいい話ではないかなと。それが先ほどの話の中にもありましたけれども、区の中で新しい発電というのはなかなか限界がある、そういうものをカバーする非常に大きな手がかりになると思うので、ここにもう少し力を入

れて、あるいは我々のグループ、太陽光発電をやられている方を含めて、もう少し深掘りできたらなと思ったところです。

それから、進捗管理、PDCAですけれども、これは申し訳ない言い方かもしれませんが、いろんな21の質問をする中で、これはこういう理由でできませんでしたという説明はしっかりあるんです。だけれども、それができなかつたら、じゃ、次はどうするかというアクションについては、ほとんどコメントが出てこない。そこを追及すると、検討しています。先ほどもちらっと、やっていかなければいけないと思いますというようなコメントがあったと思いますが、やっていきたいと思いますというのは当然のことです。それを具体的にどうするかというアクションのところ、ここが施策を進めていく中で非常に弱いなという感じがするので、ぜひこれは区全体の対応として、アクションの部分を明確にして、開示するというか、区民にしっかり伝えていただきたいと思いました。

○区長 それでは、時間が迫っていますが、ゼロエミ世田谷の〇〇さんと世田谷みんなのエネルギーの〇〇さん、それぞれコメントはございますか。オンラインのほうはいかがでしょうか。

○ゼロエミ世田谷 ありがとうございます。今の建築の専門家の方の御質問ですけれども、おっしゃるように建築時と解体時については、例えば廃棄物処理のところでカウントされていくので、非常に重要な問題で、世田谷区の排出量としてはカウントされていない部分が多いのかなと思います。例えば、セメントはセメントを作る工場での排出量にカウントされるというのが今の日本の計算方法ですので、実は再開発などによって排出されるCO₂が莫大だということをきちんと計算している方もいらっしゃいますので、非常に重要なお話だと思います。

太陽光発電の件について、製造から廃棄に係るプロセスが全く問題があるというお話ですけれども、私は都議会への太陽光発電パネル推進の陳情を環境団体と一緒に出した代表者なのですが、東京都のホームページや東京大学の〇〇先生のウェブサイトにも、その辺は全部取材をして、きちんとした道筋があるということを書いてございますので、そちらを御覧いただければと思います。よろしく申し上げます。

○区長 続けて世田谷みんなのエネルギーの〇〇さん、よろしく申し上げます。マイクを回してください。

○世田谷みんなのエネルギー 時間がない中で最後に一言だけ言いたいと思いましたのは、今日お集まりの環境政策部の方たちなので、ちょっと部署が違うかもしれませんが。生

ごみという話は出てきましたが、プラごみの問題が、今とても大事なんじゃないかというふうに私は思います。プラごみの回収だ、プラごみの処理だという話になると、それは清掃・リサイクル部ですと言われちゃうんですけども、これは環境問題だと思います。プラスチック問題、プラスチックはそこにあるだけでCO₂を発生している、あるだけでよくないんです。だから、これ以上作っちゃいけないし、そして脱プラスチック、その政策は環境政策部にとっても大事なことなんじゃないかなということをお願いしたいので、ありがとうございました。

○区長 では、なるべく早くお願いします。

○生ごみリサイクル全国ネットワーク エネルギーをつくり出すことを男性は特に重視されるんですが、もっともっと日々の生活の中で省エネできることがあると思うんです。そういうことを区のおしらせでどんどん載せていただいて、何人がこのことに取り組めば、世田谷区でこれだけCO₂が減るんですよというようなことを具体的に書いていただくと、皆さん取り組まれると思うんです。それで、今カラットの講座を4回させていただいていますが、最近は何事ごとく皆さん熱心になってきて、なぜ生ごみを焼却するんですかと、私が怒られちゃうことがあって困っているんです。

○区長 ありがとうございます。まだまだ、ここから1時間でも2時間でもお話を続けなきゃいけないようなテーマがたくさん出ました。まちづくりの仲間たちの〇〇さんから、学校の環境について、実に問題があるんじゃないかと、それは私もそのとおりだと思っておまして、実は今、世田谷区の学校改修について、環境性能というか、深沢中学校がリノベーションで減築した結果、上に通風孔を置いて空気循環をさせる。そして、パネゴラも使いながら平均的に、あと集熱器が屋上にあるんですね。こういったことで、他の学校より3度ぐらい教室内の空気が下がって非常に快適だと。逆にそこだけをやったのみになっているんですね。だから、これからの学校改築で、まさにZEBとか、いろんな環境のことを問われてきますので、単に安くということ言えば真四角にしなきゃいけないんですけども、それだけではいけないということで議論しているところなので、お話をしておきます。

それから、実は今、環境政策部のほうで「省エネ住宅のススメ」という、まさに断熱や環境に配慮した省エネ改修というのは非常に大事だし、いわゆる健康的な条件もつくり出すということで、〇〇さんという方に省エネ住宅のよさを講演いただきながら、これは2月15日の午後2時と、お仕事がある方はなかなか参加できない時間だったのは反省点です

が、環境政策部が今いるところの二子玉川の庁舎の会議室で行うんですね。その後、省エネ住宅自体の相談会も行う。ただ、ちょっと聞くところによると、まだ参加者がそれほど多くないということで、せっかくこうやって断熱や省エネ改修の呼びかけも始めていますので、今日の各団体の皆さんの中で、もし参加できるという方は、区のホームページで見られますので、2月15日省エネ住宅の講座ということで御参加いただけたらと思います。

まとめになりますけれども、皆さんからの御要望もありました1回に終わらせないで、ぜひ継続をしてほしいということでございます。これは、ぜひ私も何とか、区職員だけで頑張ろうということでは続きませんので、長く活動されてきた皆さんや、最近こういうことでアクティブに動き始めた若い世代も含めてやっていきたい。そのために、御提案があったくじ引きで御招待する、一方で、継続的に団体の方にも参加いただくようないろんな工夫はしたいというふうに思います。

なおかつ、区のほうでは、先ほど環境計画課長が言ったように、若者を研修して、気候危機に対する授業を小学校に出前してやっていくというような取り組みも始まっていますし、若者で構成する若者環境フォーラムというのでも回を重ねるようになりました。少しずつ効果が出てきているんですが、若者だけの動き、子どもたちだけにフォーカスするのではなくて、全世代型で区民会議を構成できるように、これから積み上げて加速していきたいというふうに改めて思いました。ありがとうございました。

以上、まとめとしまして、担当副区長に御挨拶をしてもらいたいと思います。

○副区長 どうもありがとうございました。各団体からの発表の後、非常に熱心に意見交換をしていただきました。時間が限られる中で宿題といいますか、今、区長が申しあげました、こういう会議の在り方の問題、また区民の方々の参加のきっかけづくりの問題、また、やっと案ができた段階ですけれども、目標に向けた具体的なプロセスの話など、宿題としていただいたと思いますので、こういった機会も継続して持ちながら頑張っていきたいと思いますので、引き続き御協力をお願いしたいと思います。

御協力をお願いして、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○環境計画課長 副区長、どうもありがとうございました。

以上をもちまして、「世田谷気候危機区民会議」を終了いたします。本日は、皆様、御参加いただきまして誠にありがとうございました。